

障がい福祉サービス事業所 W E L L

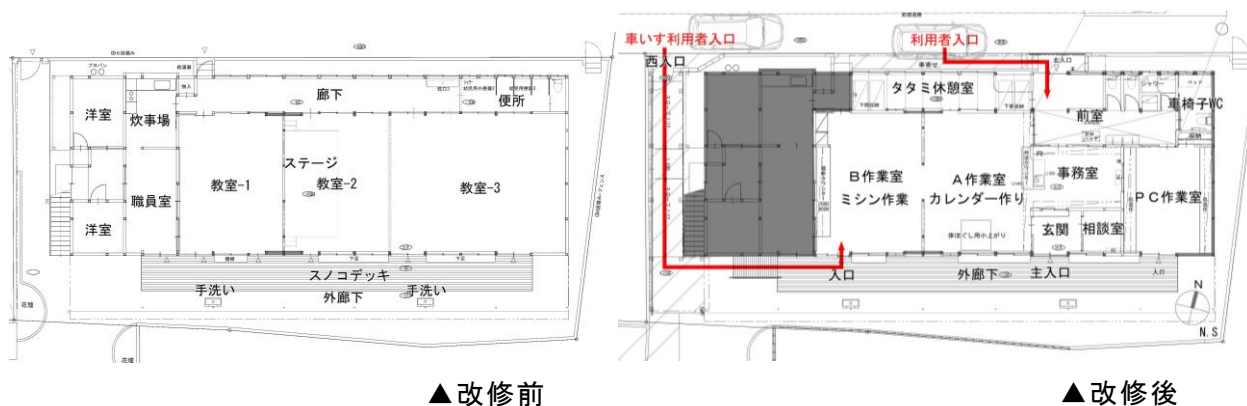
古い木造幼稚園舎を福祉作業所へ改修

■幼稚園を障がい者施設へ

昭和40年に建築された約300㎡木造2階建ての建物。1階をバプテスト教会に付属する幼稚園として使われていた。2019年10月1日より幼児教育・保育の無償化が、実施されたことを引き金に、ここが無認可であったこともあり、2020年3月に幼稚舎は閉園していた。この建物を障がい者施設として引き継ぐ事ができないものか、生活介護・就労支援B型の小規模多機能型事業所を運営していた「NPO法人Wellの会」より相談があった。

1999年に福祉作業所を開設し現在、登録20名、常時13名ほどが利用している。利用者の半数が知的障がいや重複障がいをかかえる。配慮すべき点は、車いす利用者が多い為、天候に左右されず送迎車から施設に入ることができる事、視覚障がいの人が作業をする際に静かな環境である事。

作業所の活動内容は①ステンシルによるカレンダーづくり②デザインふきんづくり③パソコンを活用してのテープおこしである。③のテープおこしの作業は会議の記録を残す仕事で各々がヘッドホンでテープを聞きながらパソコンに文字入力してゆく作業となる為、テープを聞きとれる静かな環境が必要である。また視覚障がいの者は昼間の明るい時間の眩しさを感じやすい為、日射を遮る必要もある。②の作業はミシンを使う為、ミシンの音がテープおこし作業の邪魔にならないような隔離も必要であった。



築55年の建物は古いが木の温もりがあり、広く明るい外廊下が設けられていた。旧園舎として使われていたため、大きい空間を自由に仕切ることができ天井も高く開放的であった。しかし建具は木製で隙間風が入り、トイレなど水廻りは改修必須の状態であった。さらに敷地内への進入口が狭く送迎車が入りづらい問題があったのだが、構造的には床下部分も乾燥しており改修に耐えうるものと判断し、事業所の移転先として改修を進めることとなった。

雨にぬれずに送迎できる方法として、北側道路側に車寄せスペースを設け西面のアプローチを整備して送迎ルートを確認することにした。音の問題には中央に入口と事務空間をまとめ左右に作業室を独立、お互いの作業の邪魔にならないようにしている。



▲利用者入口

車寄せのスペースを作り入口を設けた



▲車いす利用者入口

塀をセットバック、スロープとテント屋根を設けた



▲広くて明るい外廊下

柱を赤で着色し認識しやすく、床と壁の色を変えることで視覚障がいの人でも動きやすくなる



▲休憩スペース

10畳の畳敷き、ごろ寝の出来る横に長いスペースカーテンを設けることで一人になる場所を設定



▲PC作業室

個人の荷物は上部棚に収納。一人あたりの作業スペースもゆったり確保している



▲マシン作業室

裁断テーブルの高さはすこし高めがよい